

ぜか、と。「美について」という副題を持つ対話篇『大ヒippias』は「美（カラ）は難問（カレパ）だ」で結ばれるが、この「難問」を解くために、プラトンはアイデア論という大包围網を張らねばならなかった。西欧近代のカントは、ニュートン力学の機械論的説明を受け容れる自然が、同時に美しい自然としても立ち現われることに感銘し

て、プラトンとやや似た地点にまで達した。科学的認識の上滑りを嗤う犀利な現象学的哲学者にとっても、「肉に結びついた理念」の存在は「最大の難関」⁵⁾だった。厄介事（カレパ）に手を出す覚悟なしには、いまなお美（カラ）を論じることが出来ないようである。

注

1) 上段の譜は井口基成編集・校訂の春秋社版『ベートーヴェン集2』（1982）から、下段の譜はHrsg.vom Beethoven - Archiv Bonn, Beethoven Werke Abt. VIII · Bd. 3, *Klaviersonaten II*, G. Henle Verl. München (1976) から採った。

2) これには、むろん、ベートーヴェンの自筆稿、写譜、初版譜、当時のピアノフォルテの機能とその演奏法などの諸問題が絡んでくるが、ここは、それらに触れる場所ではない。実証的音楽史学の仕事については、児島新『ベートーヴェン研究』、春秋社（1985）が、現場の生きいきした空気を伝えてくれる。同書の「ベートーヴェン自筆稿のファクシミリとその意義」（157-175頁）は、図書館関係者の傾聴に価する提案であろう。

3) A.フルトヴェングラー & H. L. ウルリヒス、『ギリシア・ロマの彫刻』、澤柳大五郎訳、岩波書店（1956）、185-191頁参照。美術考古学者の仕事にも、藝術的直観の閃きが不可欠なことが分かっておもしろい。なお、この群像についても、ゲーテは模範的な美術鑑賞体験の記述を残している。『ゲーテ年鑑』第18巻（日本ゲーテ協会、1976）、195-215頁にすぐれた紹介論文、芦津丈夫「ゲーテとラオコオン群像」がある。

4) と5) M. メルロ＝ポンティ『見えるものと見えないもの』、滝浦・木田訳、みすず書房（1989）、206頁。

史料に見る湯川先生と税務署

基礎物理学研究所教授 牧 二 郎 ^{*1}
大阪医科大学教授 河 辺 六 男 ^{*1}

基礎物理学研究所分館こと通称白川学舎の名をご記憶の向きは、本学も最ヴェテランのうちに数えられることであろう。この左京区北白川小倉町50番地の227所在の木骨造瓦葺二階建は元来湯川記念財団の所有であったが、後に京都大学に寄贈された。現在この敷地には鉄筋四階建の基研数理解析研共同利用宿舎が建ち、逆に財団事務室が間借りしている。

そもそも白川学舎開館披露があったのは、湯川記念財団設立の計画が漸く緒についたころおい、1955年（昭和30年）5月20日（金）午後3時である。建物視察の後、財団設立世話人で寄贈者の下中弥三郎平凡社社長、同じく世話人湯浅佑一湯浅電池社

長、滝川、鳥養・現、元総長（当時）、そして湯川先生の各挨拶があった〔YHAL Z01 061 M01〕^{*2}。湯川記念財団はその目的とするところを、「理論物理学を主体とする基礎科学の研究を援助促進し、その進歩発展を図り、もって世界文化に貢献する」とうたっているが（財団寄付行為第3条）、直截には、当時創設されたばかりの共同利用研究所、基礎物理学研究所の事業推進の財政的バック・アップを意図した。白川学舎は財団設立呼掛け当初に寄付された物件で、研究所本館の狭隘を補い、且宿舎の機能を兼ねた。財団設立の基金活動において、ノーベル賞金からの300万円の拠出と並ぶ金看板であった。

*1 湯川記念館史料室委員

*2 湯川記念館史料室（Yukawa Hall Archival Library）文書番号。

寄贈に際し平凡社側は、免税措置の観点から、「建物は平凡社の寄附といふが、手続きとしては現金を財団設立世話人に一旦寄附して、世話人会の方で購入してトウキをする」ことを希望した〔Z01 060 M01 : 長谷川万吉→湯川秀樹1955年3月18日付書簡〕。事はそのように運ばれた。登記は1955年3月31日、左京区下鴨神殿町18番地在住湯川秀樹名義である。北白川小倉町78坪の土地が70万2千四百円、日本間3万洋室7室建坪述69坪の木造二階建が241万8千9百円の時代であった〔Z01 010 M01〕。

この高名の物理学者の「取得した」物件に、左京府税事務所が不動産取得税4万7千40円を賦課したのは同年6月16日付である。納税書を一瞥して湯川先生は眼鏡を額にズリ上げ、「や、や、や、……」と奇声を発せられたにちがいない。そして即刻信頼する五島道信基研事務主任（当時）に電話されたであろう。7月19日付で提出された「不動産取得税異議申立書」〔Z01 062 M01〕は、専ら当該物件が学術研究に供されることを強調し、その所有権は現在設立準備中の湯川記念財団に帰属することになるもので、湯川秀樹名義の登記は、財団設立世話人会の一世話人による、将来の移管手続きを顧慮した中間的なステップにすぎず、依って湯川個人への課税は免んぜられるべき、と主張する。

だが、10月13日全く同じ税額の「決定通知書」を送付される〔Z01 063 M01〕。〔別紙事由〕に従えば、地方税法第73条の4に基づく不動産所得税の減税は、「不動産所得の時期と法人設立の時期とが最近において確実に行なわれる」ことを条件とし、これを「不動産所得時における不動産の使用状況において認定」とする、という。一読した湯川先生は笑みは苦く、口許はかすかに歪んでいたことであろう。この時期、財団設立の見通しは未だそれほど明るくはなかったからである。6月3日丸の内工業倶楽部大食道での設立準備会に出席した百三十社に協力を求め、釀金依頼状発送は、7月、9月、10月付の3回に及んでいるが〔Z01 070, 110, 140, 150, M01〕、寄付金収入合計は8月15日現在426万、Rockefeller 財団から

5千ドル（180万円）入金が目途がやっとなつたに過ぎない〔Z01 120, 134, M01〕。一年前に始まった仁科記念財団の募金の方も、目標額3千万円に対し、申込は2千万円に達せず、募金期間の延長と財団設立の時期の繰り延べが云々される有様である〔Z01 260 M03〕。取得税免税の事例を、「今日に至るも未だ設立されていないものに対して適用することは出来ない」とするも致方あるまい歟と。

翌1956年、3月26日付で清瀬一郎文部大臣に提出された「財団法人湯川記念財団設立許可申請書」〔Z01 010 M01〕には、上記土地建物の寄付申込書を、貼付の登記簿本とともに見ることができる。申込書は湯川秀樹より財団成立代表者鳥養利三郎宛である。

湯川記念館史料室（1979年8月1日発足）は、こんな挿話も潜む、この国の素粒子物理学の誕生と進展に関する一次資料（湯川秀樹自筆原稿・計算・講義ノート・研究室日誌・研究会記録・等々）69ケース（45×40×30cm 段ボール箱）、2千冊の湯川蔵書、2百冊の湯川著作（何等かの湯川の寄与を所載する単行本）、それらを収納展示する湯川記念室（1985年2月6日開設）から成る。記念室は湯川先生在任時（1953-70）の基研所長室である。資料の整理が20%にも達しないのは汗顔の至りであるが、既整理分は“YHAL Resources : Hideki Yukawa (1), (2), (3)”にまとめられて、請に応ずる。各資料は、その出所・種別・資料群内の順序を示す9個の文字によって分類される。その梗概を付表にご覧いただきたい。

科学技術史料（scientific archives）の収集・保存の気運は、この国の近代科学の成熟に対する一指標であろう。湯川記念館史料室もわが国の物理学漸く百年の産である。同じく創立百年を迎える本学でも同様な事態に面し始めている。米国物理学会物理学史センター刊の手引書のいう通り、一人の科学者に係わる資料は、その人が最も密接であった研究機関に保管できれば最上であろう。研究環境についての情報への接近・蓄積も可能となるからである。この精神からすれば、当初の資

料整理には、その分野の専門家の協力を必須とするが、編集された文書群の管理は逐次当該教室・研究所図書室に移されてゆくべきであろう。そして図書館中央を通じてそういった情報に容易にアクセスできることが望ましい。だがこの過程はなま易しいものではなかろう。各資料の特質に相应する独特の分類形式がそれぞれ発明・採用されるにちがいないし、それでなければ整理は進まない。さらに科学技術史料に実験装置・機器の原形も含めると、図書館だけではまかないきれず、学部博物館の新設あるいは学外の施設の協力を待たねばなるまい。しかもなお、それらを情報センターとしての図書館に統括する構想が練られねばならぬのである。

[参考文献]

1) 『湯川記念資料館史料室私記』(素粒子論研究 65 / 4 (1982), 223 - 237); “The Yukawa Hall Archival Library, Kyoto ” (Proc. US-Japan Collab. Workshops on the History of Particle Physics in Japan (YHAL. 1988), 237 - 241).

2) 『物理学史料調査等特別委員会報告』(日本物理学会, 1984年 2 月); “ Scientific Source Materials : A Note on their Preservation ” (AIP, Center of History of Physics, 1977); “ Preserving Computer-Related Source Materis ” (AFIPS, 1979).

3) 実験装置保存の一例として, J. H. Bryant : “Heinrich Hertz, The Beginning of Microwaves ” (IE EE, 1988).

YHAL Classification Scheme

We use nine letters and figures in total as the code number :

SOURCES OF MATERIALS	ORDER OF MATERIALS	KINDS OF MATERIALS
E Envelopes	0 1 0	A manuscripts of Articles
F Files	0 2 0	B manuscripts of Books
N Notebooks	0 3 0	C Correspondence
Z Fragments & others		D laboratory Diaries
.	.	E manuscripts of Essays
.	.	L Lecture notes
.	.	M Miscellaneous
		N Reports to the occupation forces
		P manuscripts of scientific Papers*
		R proceedings of Research meetings
		T manuscripts for Talks
		U manuscripts of Unpublished articles
		X Records of university affairs.

[*The ' Papers ' are numbered as they are in "Hideki Yukawa Scientific Works ",
Part I (Iwanami-shoten, Publishers, Tokyo, 1979).]

We adopt the following code numbers for materials which are edited by the
Committee for YHAL:

E	D	T	0	1	0	Selected materials on particular subjects, which are compiled by the Committee for YHAL. Pictorial materials: photographs, sketches, video-tapes, etc. Oral materials : recorded audio-tapes of addresses, lectures, and symposia.
P	C	T				
A	D	T				

YHAL Resources : Hideki Yukawa (I)		
[Soryushiron Kenkyu 65 (1982), 239–269]		
Source	Kind	Title
E01	P01	Interaction of El. Particles I , 1934
E02	P12	On the Interaction of Elementary Particles II , 1937
E03	P13	On the Interaction of Elementary Particles III
E04	P14	On the Interaction of Elementary Particles IV , March 15 1938
E05	U01	[Problems on the Intra-Nuclear electron, c1933]
E06	U02	A Consistent Theory of Nuclear Force and β -disintegration
F01		[Manuscripts for Symposia and Colloquia, 1934–35]
F02		[Manuscripts of papers, 1934]
F03		[Manuscripts of papers, 1935]
F04		[Manuscripts of papers, 1936]
EDT	010	[Record of Colloquia on Theoretical Physics, Osaka Imperial University, 1938]
EDT	020	Development of Meson Theory in Japan, 1940–45
EDT	030	Two Meson Theory
PCT	010	Hideki Yukawa 1907–1981 (16 panels of 60cm $\times$ 120cm)
YHAL Resources : Hideki Yukawa (II)		
[Soryushiron Kenkyu 70 (1985), 269–306]		
E08	U04	Positron Theory
E15	T25	[Manuscripts for Talks in the 1939 Annual Meeting of PMSJ]
F05		[Manuscripts for Talks in Symposia, 1936–]
EDT	040	Nonlocal Fields and H. Y. in receiving the Nobel Prize
YHAL Resources : Hideki Yukawa (III)		
[Soryushiron Kenkyu 77 (July 1988), 161–202]		
E09	P09	On the Nuclear Transformation with the Absorption of the Orbital Electron, Feb.18,1937

E10	P15	The Mass and the Life Time of the Mesotron, March 1939
E11	P17	Absorption of Slow Mesotrons in Matter, Yukawa, Okayama, 1939
E12	A01	[A Review of Heisenberg's paper: <i>Ueber den Bau der Atomkerne</i>]
E13	A04	[Recent Researches on the Cosmic Ray, July 1937 (in Japanese)]
E14	A13	[Recent Progress in Physics, 1941 (in Japanese)]
E16	U05	On the Theory of the New Particle in Cosmic Ray
E17	P07	Note on Dirac's Generalized Wave Equations
F08		[Memoranda]
F15		[Problems investigating at Present, 1942]
F16		[Manuscripts for Talks on the Theory of Elementary Particles, 1942-43]
F50	X01	[Physics Department, Kyoto University (1)]
F51	X02	[Physics Department, Kyoto University (2)]
EDT	050	Hideki Yukawa in 1939 Tour to Europe and U. S. A.
EDT	060	Distribution of Heisenberg's 2nd Paper on the S-Matrix in Japan
PCT	020	Exhibit on Hideki Yukawa and Meson Theory (26 panels of size 53cm × 42cm)

湯川記念室（1985年2月6日開設）

